

対話結果

「資料6 習志野市新庁舎等基本設計 本編」に関する対話事項

No	頁	該当箇所			タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
		1	1-1	1-1-1				
本-1	A-05	2	2-1	2-1-2	6F設備機械室について	電気室・発電機室を屋外設置とします。	×	屋外仕様とすることにより、設備機器の安全性、保水性、耐用性に懸念があるため、不適とする。
本-2	A-06	2	2-1	2-1-4	ペリメーター部の空調	エアフローウィンドウによるペリメーターの温熱環境をシミュレーションにより確認し、窓下のウォールスルーユニットを中止します。	×	ウォールスルー方式を変更することは可能だが、細かいエリアごとに運転ができないため、不適とする。
本-4	A-07	2	2-1	2-1-5	市庁舎外観計画	原案:庁舎 屋根・軒底 アルミ-亜鉛合金メッキ鋼板鋼帯フッ 樹脂塗装 変更案:ガルバリウム鋼板 塗装鋼板 日鉄住金鋼板 ハイレタン程度 理由:メンテナンス性能の向上コストと性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
本-5	A-07	2	2-1	2-1-5	市庁舎外観計画	原案:庁舎 低層部 開口部 スチールカーテンウォール フッ素樹脂塗装 変更案:溶融亜鉛メッキ下地 水性シリケート塗料 (尙セラテック製タフマックス程度) 理由:メンテナンス性能の向上コストと性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
本-7	A-11	2	2-1	2-1-6	OAフロア仕様について	メンテナンス性向上の為、OAフロア仕様(パネル・支柱)を置き式溝配線フロアシステムに変更したい。	○	適とする。
本-8	A-13	2	2-1	2-1-6	議場内装について	壁面凸デザインを平坦とします。 その部分を吸音仕様とします。	×	吸音性能と意匠性が確保できないため、不適とする。
本-9	A-19	2	2-2	2-3-1	土木作業員詰所立体駐車 場計画	原案:開口部シャッター フッ樹脂塗装光触媒塗装 変更案:粉体塗装(光触媒塗装中止) 理由:コストと性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。

「資料6 習志野市新庁舎等基本設計 本編」に関する対話事項

No	頁	該当箇所			タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
		1	1-1	1-1-1				
本-10	A-19	2	2-3	2-3-1	環境負荷低減計画 概要	原案:市庁舎 東面・南面 開口部 Low-Eガラス 変更案:フロート複層ガラス 理由:直射日光がほぼ室内に入射しないので西面以外はLow-e不要	×	冬場の断熱性能が低下すると考えられるため、不適とする。
本-11	A-19A-20	2	2-3	2-3-1 2-3-2	屋根・軒庇形状について	屋根・軒庇形状を変更したい。 ・庇出寸法は変わらないため日射遮蔽性能は同様。 ・形状の簡素化により外装工事の工期短縮が可能。	×	庇面のレベルを下げることや手摺を無くすことは、外壁面のメンテナンス性の低下につながるため、不適とする。
本-12	E-01	4			設計照度について	事務作業に必要な十分な照度を確保しながら台数削減による省エネルギー性向上、維持管理費、LCC低減を図り、また色温度(4000K)による快適性にも配慮し、設計照度を750ルクスから500ルクスに変更したい。	×	市の実施業務は多種多様であり、さまざまな場面にあっても適切な執務環境を確保することが必要であり、要求水準書に示す諸元表及び建築設備設計基準(事務室:750LX)を遵守するため、不適とする。
本-14	E-02	4			変圧器仕様について	モールド式を油入式に変更したい。	×	電気室内は、不燃機器の採用を重視するため、不適とする。
本-16	E-02	④	ア		高圧受変電設備、電力引込方式について	電力引込2回線(本線+予備電源)を本線引込のみとし、予備電源は管路のみ設置に変更したい。	×	市の業務の継続性を踏まえ、リスク分散の観点から不適とする。

「資料6 習志野市新庁舎等基本設計 本編」に関する対話事項

No	頁	該当箇所			タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
		1	1-1	1-1-1				
本-17	E-02	④	ア		高圧受変電設備、変圧器容量について	需要率を考慮し、変圧器を選定したい。 「原案」 一般電灯1φ300kVA×3台、 一般動力3φ300kVA×3台、 一般動力3φ500kVA×1台、 保安電灯1φ200kVA×1台、 保安動力3φ200kVA×2台、 計2900kVA 「変更案」一般電灯1φ200kVA×3台、 一般動力3φ200kVA×1台、 一般動力3φ500kVA×2台、 保安電灯スコット200kVA×1台、 保安動力3φ300kVA×1台、 計2300kVA	×	高圧受変電設備の容量削減により、基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
本-18	E-02,03	4	4-(2)	4-(2)-① 4-(2)-⑤	蓄電池	原案:非常照明用蓄電池設備設置 変更案:非常照明をバッテリー内蔵とし蓄電池設備を中止 理由:ランニングコストの低減	×	定期的なバッテリー交換が必要であり、維持管理が煩雑になるため、不適とする。
本-20	E-03	4			蓄電池について	受変電操作用と非常照明用を統合して1台に変更したい。	×	官庁施設の総合耐震計画基準および同解説に反するので、不適とする。
本-22	E-03	⑤	ア	(ア)	直流電源装置について	受変電制御用と非常照明用を兼用に変更したい。 「原案」受変電制御用MSE 50Ah×1、 非常照明用MSE 400Ah×1 「変更案」非常照明・受変電制御兼用400Ah×1	×	官庁施設の総合耐震計画基準および同解説に反するので、不適とする。
本-23	E-04	4	4-(2)	4-(2)-⑩	映像設備変更	原案:小委員会室に難聴者対応磁気ループ設置(床埋設) 変更案:可搬型タイプに変更(1セット) 理由:どこでも利用可能とすることで利便性向上、コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。

「資料6 習志野市新庁舎等基本設計 本編」に関する対話事項

No	頁	該当箇所			タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
		1	1-1	1-1-1				
本-25	E-05	4	4-(2)	4-(2)-⑬	インターホン変更	原案:設備保守用インターホン設置 変更案:別途工事にて手配のPHSを兼用 理由:利便性向上、コスト・性能のバランス	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
本-28	M-01	5	5-1		空調機への外気取入れ方法変更	原案:上階から外気を取入れ、免震ピット内経由で各階へ供給 変更案:免震ピット内ダクトリングを中止し、外気は免震ピットより直接取入 理由:各階DSを縮小し倉庫等への転用、ダクト中止によるLCC削減	×	建築物における衛生的環境の確保に関する法律(昭和四十五年四月十四日法律第二十号)の基準を原則とするため、不適とする。
本-29	M-01 A-03～05	52	5-11-3		熱源変更及び各階機械室の用途変更	原案:市庁舎の主熱源方式は中央熱源、各階に空調機械室設置 変更案:弊社オリジナル技術を採用した個別熱源空調方式に変更 理由: ・LCC低減 スペース有効利用、 ・各階機械室を中止、会議、執務、倉庫等に利用可能 ・屋上熱源機械室を中止して倉庫等に変更可能	×	基本設計にて想定した諸室の空調性能を満たさないため、不適とする。
本-30	M-02	5	5-1	(2)-③	空調配管設備の配管材について	加湿給水管の配管材をSUSからポリエチレン管に変更したい。 上水管と同仕様であり、同等機能を確保することができる。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
本-31	M-02	5	5-1	(2)-④	空調方式について	GFエントランスホール及びロビーの床吹出し方式を壁吹出し方式に変更したい。	×	エントランスホール及びロビーは吹き抜け構造であり、居住域への空調性能を効果的に実現する必要があるため、不適とする。
本-32	M-02	5	5-1	5-1-1	加湿給水管材について	ステンレス鋼管を硬質塩化ビニルライニング鋼管に変更したい。	○	適とする。

「資料6 習志野市新庁舎等基本設計 本編」に関する対話事項

No	頁	該当箇所			タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
		1	1-1	1-1-1				
本-34	M-02	5	5-1		ペリメータ空調変更-1	原案：大部屋のペリメーターにウォールスルーエアコンが設置されている。 変更案：ペリメーターヒーター＋エアバリアファンを設置する。 理由：省メンテナンス、LCC低減	×	ウォールスルー方式を変更することは可能だが、細かいエリアごとに運転が出来ないため、不適とする。
本-35	M-02	5	5-1		ペリメータ空調変更-2	原案：大部屋のペリメーターにウォールスルーエアコンが設置されている。 変更案：ウォールスルーエアコンを中止する。 (ヒータ用コンセントは設置) 理由：省メンテナンス、LCC低減	×	基本設計にて想定した諸室の空調性能を満たさないため、不適とする。
本-36	M-04	5	5-1	(3)-②	中水利用について	雑用水(中水仕様)の系統は井水のみ の利用として雨水ろ過装置を中止したい。 メンテナンスコストを低減することができ	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
本-37	M-04	5	5-1	(3)-④	排水方式について	排水方式を屋内 汚水雑排水分流から 合流に変更したい。 LCCを低減することができる。	×	市の業務の継続性を踏まえ、リスク分散の観点から不適とする。
本-38	M-04	5	5-1	5-1-1	雑用水管材について	塩素滅菌を行う雑用水については、塩 素濃度管理によりステンレスの耐食性に 影響を及ぼす恐れがあるため、配管材 料を、ステンレス鋼管から硬質塩化ビニ ルライニング鋼管に変更したい。	○	適とする。
本-39	M-05	5	5-1	(3)-④	VAVについて	VAVの設置数を各スパンから3スパン 毎に変更したい。 管理箇所の低減により、メンテナンスコ ストを低減することができる。	×	きめ細やかな空調ゾーニングが行えないため、不適とする。
本-42	M-08	3	3-2		雑用水配管の管材について	SUS管よりVLP-VBに変更したい。耐 久性は同等である。	○	適とする。
本-43	M-08	5	5-2	5-2-1	一般用大便器の洗浄方式について	LCC低減を考慮し、センサー(感知)ス イッチ方式を、シンプルな機構の手動 FVに変更したい。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。

「資料6 習志野市新庁舎等基本設計 本編」に関する対話事項

No	頁	該当箇所			タイトル	提案	提案の 適否	対話結果
		1	1-1	1-1-1				
本-44	S-07	3	3-5		床コンクリート強度について	床コンクリートを実施設計時に最適化したい。	×	具体的な提案が無いため、不適とする。
本-45	S-07	3	3-5		鉄骨材料について	塑性化しない大梁（SN490B材）をSM490A材とし、小梁（SN400A,B材）をその調達性と部材断面の効率化のためにSS400材に変更したい。	×	基本設計にて想定した所定の性能を満たさないため、不適とする。
本-46	S-07	3	3-5		CFT柱の充填コンクリートについて	充填コンクリートの設計基準強度及び充填範囲を実施設計時に最適化したい。	×	具体的な提案が無いため、不適とする。
本-48	S-16	3	3-8	3-8-2	液状化対策及び基礎形式の仕様について	液状化対策及び杭種等を実施設計時に最適化したい。	×	具体的な提案が無いため、不適とする。
本-49	S-17	3	3-9	3-9-1	液状化対策及び基礎形式の仕様について	砂杭による地盤改良及び杭基礎形式を、液状化対策と支持力機能を併用した深層混合処理工法による格子状改良に変更したい。	×	支持層については、構造計画S-03記載の支持層深度における支持力を想定しており、提案の支持層については不確定要素があるため、不適とする。